

「京都市市民スポーツ振興計画」中間見直しに係る関係団体のヒアリング調査について

時 期 平成27年8月10日（月）～9月24日（木）

出席者 関係団体数名、山下秋二委員長、松永敬子委員長代理、事務局

8月 10日（月）

（一社）京都市老人クラブ連合会（ひと・まち交流館会議室）
川島常務理事、山本体育委員会副委員長、森田女性委員会委員長、
吉岡女性委員会副委員長、（リエゾン）三浦委員

11日（火）

京都府レクリエーション協会（京都テルサスポーツ団体事務室）
神埼会長、宮林事務局長、城野担当、（リエゾン）長谷川委員

株式会社京都パープルサンガ（市民スポーツ振興室内会議室）
細川取締役、吉岡ホームタウン推進担当

12日（水）

（公財）京都市体育協会
内田会長、藤野副会長、草川専務理事、坂井事務局長、小西課長

京都障害者スポーツ振興会（京都市障害者スポーツセンター会議室）
金子事務局長、（リエゾン）飯田委員

9月 1日（火）

京都市体育振興会連合会・京都市スポーツ推進委員会（北区役所応接室）
北村体育振興会連合会常任理事、藤井スポーツ推進委員会委員長

京都市スポーツ少年団（教育委員会体育健康教育室会議室）
鴨志田本部長、小林副本部長
（オブザーバー）教育委員会体育健康教育室：森田課長、小島係長

18日（金）

京都フローラ（京都フローラ内会議室）
萩原球団代表、池田担当

24日（木）

スポーツコミュニケーション KYOTO 株式会社（京都ハンナリーズ事務所）
麻生ゼネラルマネージャー、武田マネージャー

京都市老人クラブ連合会

- グラウンド・ゴルフ、ペタンクの参加人数が増加。
- ウォーキングは気軽に参加できるので、年々参加人数が増加
- 活動場所の問題で悩んでいる。もう少し高齢者の利用を考慮する等行政からの支援をお願いしたい。
- 世代間交流はほとんどなし。一部の区でやっているのみ。
- 下京区では体育振興会と梅小路公園でグラウンド・ゴルフ大会を実施
- 京都市老人クラブ連合会のホームページでは、各区老連の情報も掲載し、1ヵ月に一度は情報更新しているが、見ている会員は少ない。高齢者は紙ベースでなければ難しい。
- 補助金について、団体単位での補助金交付ではなく、事業単位での交付をお願いしたい。
- 専門的に指導してくれるボランティアの派遣があれば良い。

前回との比較

- ウォーキングが盛んになった。
- 活動場所の問題については、前回同様。

京都府レクリエーション協会

- 手軽に誰でもできる、ルールもそれほど難しくないニュースポーツの普及に努めている。
- 障がいを持つ方でも高齢の方でも一緒にできるニュースポーツは、年々重要が高まっている。
- レクリエーション協会・指導者資格の認知度はあまり高くない。もう少し認知度を上げたほうが良いと思っている。
- 他団体との連携などによるニュースポーツの普及が以前に比べて進んでいる。
- 種目の認知度が低く、活動場所を確保することが難しい。
- 今後大規模スポーツ大会の開催にあたり、それを足掛かりにニュースポーツの普及に努めたい。
- 京都市との連携を強化したい。「生涯スポーツ講習会」の種目を決めるなどの京都市スポーツ推進委員の会議の場でニュースポーツの種目の紹介等できればありがたい。

前回との比較

- 前回同様場所の確保に苦労している。
- ニュースポーツの普及は、以前に比べ進んでいるが、引き続き周知方法を検討する必要がある。

株式会社京都パープルサンガ

- サンガのホームスタジアムが亀岡に移転することにより、西京極を使える競技団体が増えるため、移転は市のスポーツ環境の改善につながるのではないかと。
- ホームタウン推進部の活動が活発である。「サンガつながり隊」(平成23年度から実施)、区民デーの実施、区民ふれあいまつりへの参加等、地元に着したプロスポーツチームとして成長している。
- 主に高齢者を対象とした健康体操教室「京都サンガ F.C. 健康アカデミー」を開催。参加費は無料。

前回との比較

- 前回は、地域活動が十分でなかったとの発言があったが、この5年で地域密着型のプロスポーツチームへと変化している。
- 「京都サンガ F.C. 健康アカデミー」を開催する等、高齢者を対象とした取組を着実に推進している。

京都市体育協会

- スポーツ施設が少ない。グレードの高い施設を整備するよりも、施設数を増やすことが重要。将来的な施設の方向性、整備計画を示すことが必要。
- 多様な地域住民の施設利用に配慮すべきである。
- 各企業が保有する体育館や野球場など、企業施設の開放について検討すべき。
- アスリート養成は京都府体育協会が、京都市体育協会は市民スポーツの振興に重点を置くべき。
- 市役所内部で、学校体育・障害スポーツ・市民スポーツによってそれぞれの関係部署が異なるため、もっと関係部署同士の連携を取ってもらいたい。
- 指定管理者制度の見直しをしてはどうか。指定管理者に任せきりでは、行政に現場の声が届かなくなる。

前回との比較

- スポーツ施設の少なさへの指摘については前回同様。

京都障害者スポーツ振興会

- スポーツイベントへの参加者数は減少しているが、その一因として、情報の集約ができていないことが挙げられる。
- 各団体との相互交流・情報の共有を強化していく必要がある。
- 事業の対象の7割～8割が60歳以上の方なので、高齢者スポーツとの連携をどう図るかが重要。障がいのある・なしに関わらず、スポーツを楽しめる環境を整えていきたい。
- 施設の確保には苦勞している。地域体育館等では車いすの利用が断られるとのことであったが、指定管理者の協定に盛り込む等しなければ、現状は変わらないのではないかと。
- 京都府民総合体育大会で卓球バレーが開催される等、以前と比べて、世間の、障害者スポーツへの理解は高まったと考える。
- 若い世代のボランティア登録が少なく、ボランティアの高齢化が進んでいる。また、ボランティア全体の数も減っている。
- 指導者の確保についても、年々減ってきており難しい。
- 大学との連携を強化する必要がある。
- 障害者スポーツへの理解は前回に比べ高まっている。

前回との比較

- 情報の集約・他団体との情報共有前回と同様。
- 施設の確保については前回同様苦勞している。
- 新たなボランティアの確保及びボランティアの高齢化についても前回同様。

京都市体育振興会連合会・京都市スポーツ推進委員会

- 体育振興会連合会・スポーツ推進指導員ともに、高齢化・人手不足が顕著である。
- 体育振興会について、市外・府外から引っ越してきた住民の中には、振興会の存在自体知らない人がいる。スポーツ推進指導員も同様。
- 対象者の高齢化で、実施種目に偏りがある。新種目の導入がなかなか進まない。
- 地域の施設利用は5年前と変わらず満杯状態。

前回との比較

- 新しい種目の導入については、前回同様難しい状況が続いている。
- 構成員の高齢化・減少についても、前回と同様の傾向である。

京都市スポーツ少年団

- 少子化の影響もあり、団員数・団の数ともに減少傾向。
- 各種目間の交流が進んでいる。例えば、野球・サッカーそれぞれの種目に所属している子ども達が、大縄跳びやドッチボールで交流を深めている。
- 時代の変化とともに、女子の野球・サッカーへの参加が増加。
- 少子化・核家族化による変化。活動に熱心な親がいる一方で、中学受験と少年団の両立が難しい。
- 活動場所について、その地域によるが、十分に確保できているとは言い難い。
- プロスポーツ、とりわけハンナリーズ・サンガについて、スポーツ少年団のネットワークをもっと有効活用してもらえれば、互いにメリットがあるのではないか。
- 地域に根差したスポーツ少年団を目指すことが何よりも大切である。

前回との比較

- 前回は、少子化の中で団員数・指導者数が増えているとのことであったが、今回は、他の都市同様どちらも減少傾向。
- 前回は種目の強化という面が強くなっているとのことであったが、今回は、概ねもともとのスポーツ少年団の趣旨（子どもたちが広くスポーツに接すること）に合致した取組がなされている。
- 施設の少なさについては前回同様の指摘あり。
- 女子プロ野球との連携が新たに加わっている。

京都フローラ

※前回ヒアリング時（平成22年）は、発足2年目。

- 京都では、硬式野球をできる施設が圧倒的に少ない。伏見桃山城運動公園野球場が整備されたおかげで、5年前に比べると環境は改善されているが、雨天時の場合に試合・練習ができない等の問題がある。また、選手の育成について、夜間にスクールを開講できる場所があれば良い。
- 「京都アストドリームス」から「ウェストフローラ」にチーム名を変更し、今年から改めてチーム名を「京都フローラ」に変更した。「京都」という名前を戻したことで、地域での活動が増え、市民の皆様ともより身近に接することができている。

市内小学校でのティーボール・野球教室・夢授業の実施、各区ふれあい祭への参加等。

※ティーボール：野球に似たスポーツ。特徴は投手はおらず、台の上に乗ったボールを打つこと。（学校指導案に掲載）

- ファン層について、コアなサポーターは前回同様中高年の男性だが、野球教室に力を入れていることもあり、子どもの観戦者が増えたように思う。
- 地域密着型のプロスポーツ団体を目指して努力していることもあり、より多くの方と触れ合うために、市内にある各スポーツ団体（その他の団体も含め）等とつながれる場所があれば助かる。

前回との比較

- 球場の日程調整の難しさ、施設の絶対数の不足は前回と同様の指摘あり。
- 前回とは違い、今年度からではあるが、まずは地域に密着したプロスポーツ団体を目指すという明確な理念のもと、野球教室等様々な活動を精力的に行っている。
- 他の団体とのつながりについては、前回と同様の希望あり。

京都ハンナリーズ

※前回のヒアリング時（平成22年）は、発足2年目。来年秋に開催の「Bリーグ」には、一部での参加が決定している。京都創造大賞2015京都創造者賞（未来への飛翔部門）受賞。

- 京都市での認知度は以前に比べあがっていると思うが、地域によって差がある。ハンナリーズアリーナがある右京区では認知度が高いが、左京区等、ホームから離れると途端に認知度が落ちる。
- 活動場所（施設）の確保は未だ十分ではない。
- 教育委員会との協力のもと、小・中でのポスターの掲示を実施。
- 区民デーの実施、各区ふれあい祭りへの参加、小・中学生の無料招待、バスケットボールクリニックの開催等、府内でのバスケットの普及に積極的に取り組んでいる。
- プロ3団体で、もう少し連携していきたい。3団体合同でのイベントやクリニックを実施しても面白いのではないか。
- 京都にどういう団体（競技団体以外も含め）があって、その団体がどういう活動をしているかが分かれば、もっと連携して新たな事業に取り組めるのではないかと考えている。

前回との比較

- 5年前に比べ、クリニック活動や区民デーへの参加を通じて、地域での認知度は確実にあがっている。しかし、フローラと同様、各団体との繋がりについて、もう少し情報が集約された場があればとの希望あり。
- 施設の不足の指摘は前回同様。

関係団体意見聴取での共通した意見

1. 施設の不足

活動場所が十分にあれば、もっと活動が広げられるとの意見あり。(5年前と同様)

⇒【**するスポーツ「①施設の効果的・効率的な整備・運営」**】

- ・府市協調などによる施設整備
- ・スポーツ施設のあり方に関する将来構想の策定
- ・競技ニーズの多様化に対応した受入種目の拡充検討

2. 担い手・人材の確保が課題

活動の担い手の高齢化や固定化が特に市民団体(体育振興会・スポーツ推進指導員)で顕著。ボランティアの確保や担い手の育成などが大きな課題となっている。

⇒【**支えるスポーツ「②スポーツを支えるしくみづくり」**】

- ・市民ボランティアのしくみづくり・裾野拡大

⇒【**支えるスポーツ「③スポーツを支える組織や団体等との連携・協働」**】

- ・体育振興会、体育協会等との連携・協働
- ・大学との連携・協働
- ・競技ニーズの多様化に対応した受入種目の拡充検討

3. 情報提供や情報入手が不十分

必要な情報が必要な人に届いていない。情報発信の手立てが限られており、また、情報発信できる機会がどこにあるかをキャッチすることが難しい。

→特にプロ団体(ハンナリーズ・フローラ)が、イベント情報の集約・各団体との繋がりを希望。また、いずれの団体でも(サンガは除く)広報が十分でないとの認識あり。

⇒【**支えるスポーツ「②スポーツを支えるしくみづくり」**】

- ・スポーツ関連情報の総合的提供

⇒【**支えるスポーツ「③スポーツを支える組織や団体等との連携・協働」**】

- ・体育振興会、体育協会等との連携・協働
- ・大学との連携・協働
- ・プロチームをはじめとする地域密着型スポーツチームの支援・振興

○プロ3団体について

共通事項～地域に密着した活動～

- ・クリニック、教室の開催
サンガ：サンガつながり隊(対象：子ども)
フローラ：野球教室(対象：子ども～(お年寄りまで))
ハンナリーズ：バスケットボールクリニック(対象：子ども)
- ・区民デーの実施
- ・各区ふれあいまつりへの参加

課題・その他

- ・各団体同士の連携が十分とはいえない
- ・3団体合同でのイベントには、いずれの団体も意欲的